



夏休みに入り、学生の喧騒も一休み。主な学生生圃のサツマイモは我先にと競って畑を覆いつくしています。その様子を見た学生は「すごい」の一言。まだまだサツマイモの蔓は暑さの中、元気の伸びていきます。長い蔓でも2m程度ですが、収穫するころにはその倍以上になると話すせば、学生はどのくらいとれるのだろうと、たくさん収穫できることに期待を寄せています。しかし、蔓片付けから芋掘りまでやるんだと話せすと不安そうにする学生もいました。



蔓を枕に“おやすみ”したキュウリ。目まぐるしい天候の変化で休んでいるのでしょうか。偶然のなせる技ではありますが、みごと真横に果実が寝ていました。また、蔓に引っぱり、まっすぐに伸びられず、曲がったものもや、くっついてしまったものも。



湾曲したものには表側に蔓の跡が一つ、裏側に二つ付いていました。蔓の間をかいぐって必死に伸びたのでしょうか。

植物の生命力、伸びられるところを見つけて、成長した結果でしょう。「ド根性・・・」と言ってコンクリートの隙間から目を出して報道される作物を目にすることもしばしばあります。“生きる力”は力強いものです。



猛暑日の日中、農園の片隅でキジバトを見かけました。キジバトの姿は農園では珍しくありません。餌を見つけては畑の中でついばんでいる姿はしばしば見かけます。しかし、写真のように羽を広げ、地面に伏している姿を見かけたことはありませんでした。

あまりの暑さに羽を広げ、熱気を和らげているかと思いました。しかし、調べてみると羽に寄生する

虫を除去するために羽を広げて地面に付しているのだそうです。広く羽に日の光を当て、温度を高め、虫を追い払おうとしているのだそうです。猛暑日の暑さを利用し、自分を守ろうとしていたのです。



梅雨明け後、あまりの猛暑に少しでも気分転換にと風鈴を吊りました。独特の音色を響かせてくれ、どことなく清涼感を漂わせてくれます。この音色に「涼しさを感じさせてくれる」との感想を学生からも耳にしました。風鈴を吊るしたテラスには強い日差しを避けるためによしずを設置しています。また、少しでも涼しくと業務用の扇風機を稼働させています。今までなら7月半ばまでは梅雨空で、今年のように猛暑日が続くことはなかったのですが夏休み前の実習も熱くつらいものだったのではないのでしょうか。猛暑の8月も、学生にいなかった農園テラスで音色を響かせています。